（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3370105318		
法人名	医療法人　たくふう会		
事業所名	グループホーム　八幡の里		
所在地	岡山市中区八幡73		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人　津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	平成31年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・運営主体が医療法人であり、内科・呼吸器内科・消化器内科等を中心とした診療所が近くにあるため、医療依存度の高い認知症高齢者の対応が可能です。また、医師・訪問看護師との密な連携により、入居から看取りまでの介護が実施しています。

・交通の便が良く、閑静な住宅街の中で、スーパーにも徒歩で行ける環境です。

・地域との関係も良く、行事に参加し合い、事業所も地域の一員として活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体の医療法人が運営するたくふう会のグループホームで、気付きの介護を目指して曜日ごとの目標を定め、職員同士共有しながら支援に取り組んでいます。24時間体制で医療連携が整い、適切な医療が受けられる様努めています。事業所は地域との繋がりは強く、月に2回開催される認知症カフェでは、30～40名の参加があり認知症の理解を深め、共に暮らす地域住民の一員として地域行事や防災訓練などに参加し、永年交流を続け良い関係を築いています。また、岡山市公園協会が募集している緑化ボランティアグループに参加し、事業所玄関や周辺にたくさんのお花を植え、職員と入居者の楽しみに繋がっています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様とスタッフが1つの輪となって第2の家族を目指します」を理念にしています。毎日の介護の中で悩んだりしたときは理念に帰れるように共有し、実践しています。	法人理念とは別に事業所独自の理念、各ユニットの理念を掲げ職員同士共有しています。個人目標も定め、年2回の振り返りの機会を設け実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の祭りなどにも参加をしていたり、事業所の祭りや避難訓練に町内会長など参加している。また、保育園・ボランティアを積極的に受け入れ、継続して行っています。	地域との繋がりは強く、普段の生活の中で地域の方から行事参加の声掛けがあり、地域の一員として日常的に交流しています。また、保育園児やボランティアの来訪があり、入居者の楽しみに繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを通じて、認知症の正しい理解をしてもらえるように活動しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域（町内会長・民生委員など）の方々、ご家族の方々、地域包括の担当者と一緒に話し合い、意見・提案などをいただいています。	家族・地域の方・地域包括支援センター等の参加があり、報告や話し合いを行い、参加者からの情報・意見をサービス向上に活かしています。年2回は家族会と同時開催し、より多くの方が参加できる様工夫しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手続きや運営に関することで質問し、ご指導をいただいています。郵送ではなく直接足を運び書類の提出をしています。	運営推進会議で情報を貰ったり、手続きの際は直接足を運び顔の見える関係を大切にし、協力関係を築く様に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や事例検討を行い身体拘束を行わない事業所づくりをしています。マニュアルの共有と、委員会を設置して、取り組んでいます。	定期的に内部研修を行っています。インターネットの動画なども利用し、具体的な事例を挙げることにより、職員同士身体拘束をしないケアの意識を高め取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、虐待やそれにつながる不適切なケアの防止にも努めています。また、委員会を設置して、取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者がおられるので、担当者と接する時間もあり、必要性も理解しています。現在成年後見制度を利用したい利用者がおられ、対応をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・改定内容共に、口頭と文書を使用して丁寧に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。また面会時に近況をお伝えすると共に、できるだけ意見を伝えやすい関係作りを心がけています。	面会時や家族会などで入居者の近況報告をし、信頼関係づくりに努めています。また、面会が難しい方には電話連絡をし、ご家族からの意見・要望を聞く様努め、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見や提案を聞いたうえで、責任者もしくは代表者に伝え、その回答をカンファレンス等で共有するようにしています。	個人面談やカンファレンスなどで職員からの意見・提案を聞き、法人本部へ伝え、運営に反映出来るシステムとなっています。職員から設備面で意見があり、手すりを使いやすいものに取り替えました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを使い、職員個人個人と面接を行いそれぞれにあった状況を整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内のミーティングの中で短時間ではありますが、毎回勉強会を行っています。法人内研修を定期的に行い、協会などの研修にも積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山県認知症高齢者グループホーム協会、岡山県社会福祉協議会の会員であり、開催される研修等に積極的に参加をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前段階より関係を持つ機会を作り、面談など話をしやすい関係づくりをしています。入居後も個人的に話をする機会を持ち、安心した暮らしを送ることが出来るように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前段階より関係を持つ機会を作り、話をしやすい関係づくりをしています。入居後も個人的に話をする機会を持ち、要望等が伺いやすい関係を築いていくことを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、関係機関、医療機関と連携を図り、情報収集を行っています。必要な支援について話し合う機会を持ち検討しています。本人、家族の要望と実際の状況を考えて必要があれば他のサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを尊重して、介護が一方的にならないように職員同士思いを共有した介護を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時間の規定はありますが、就労状況などにより柔軟に対応しています。家族毎の関わりの違いを尊重して、本人と家族と職員で暮らしを支えていく支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会も積極的に支援をしています。外出も積極的に行えるように、家族との関係、心身の状態を把握して、支援に努めています。	入居者が利用していた近隣の通所リハビリ施設に立ち寄ったり、友人の面会もあります。また、入居者はスーパーでの買物や食事をすることを楽しみにされており、家族と協力し、馴染みの継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を職員が見極め、時には間に入ることで共に暮らしていると感じることができるように関わっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族からの希望等があれば積極的に助言・支援を行っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前段階より関係を持つ機会を作り、話をしやすい関係づくりをしています。入居後も担当職員を決めて、話をする機会を持ち、安心した暮らしを送ることが出来るように支援しています。	担当職員を中心に日常支援の中で情報収集に努め、申し送りノートやカンファレンスで職員同士共有し、皆で意見を出し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントし、共有しています。入居後もこれまでの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・カンファレンスを通じ現状を把握・共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・意向を確認し、担当職員の思いを取り入れた介護計画を作成し、職員全員で話し合い実施しています。	個々に合った介護計画になる様、担当職員・本人・家族・医療・関係者の意見を反映させながら話し合い作成しています。また、変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の充実を図り、カンファレンスなどで共有をして実践しています。介護計画の定期的な見直しを行い、現状把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の申し送りを記録して、よいサービスにつなげていくことが出来るように他のサービス等の利用も含め積極的に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員の方との情報交換の場を持ち、地域包括支援センターとも連携をしてより良い暮らしが送れるように支援しています。回覧板や広報誌などで情報収集しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	旭竜クリニック医師と連携をして適切に対応しています。他科受診も、本人と家族の意向を聞きながら連携を図っています。	定期的な往診を利用し、医師・看護師と医療連携が取れており、適切な医療が受けられる様に支援しています。他科受診の際は、通院介助を行い、情報共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を密にし、医療面から適切なサポートが受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、本人の状態確認に努めると共に、病院関係者と連携をして、早期の退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針の説明をしています。看取りについてもお伝えをし、本人・家族の希望に沿った対応を行っています。「できることを心をこめて行う」と決めて、十分に話し合いを行っています。	本人・家族にとって一番良い形で支援出来る様、状況に応じてその都度関係者と話し合い、情報共有しています。緊急時は24時間体制で医師と連絡が取れる体制が出来ており、安心してチームで支援に取り組み、多くの方の最期に立ち会っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の方法は定期的に学んでいます。マニュアルを掲示して、連絡方法も掲げています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っています。町内の防災班の方にも参加していただいています。地域の避難訓練にも参加をし、いざというときの協力体制を確保しています。	定期的に訓練を行っています。町内会長が連絡網に名を連ね、応援要請出来る様、協力体制が築かれています。また、職員、入居者も一緒に地域主催の洪水を想定した避難訓練に参加しました。	災害の状況は刻々と変化していきます。職員も被災することを考慮して、今後も地域・消防と協力関係を築き、変化に合わせた対応を続けて行かれることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人という意識を持ってプライバシーに配慮した声かけ、介助を行うようにしている。マニュアル等で守秘義務等について理解を深めている。	職員は日々の業務の中で、一人ひとりに合った声掛け・接遇は何なのか意識することを大切にし、人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保に努め対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にして難しいときでも選択肢を提示することが出来るように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の時間に合わせて、生活をするのではなく、本人の思いに沿った1日を過ごしていただけるように支援しています。利用者の時間に合わせて、職員が動けるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活を知り、本人･家族の希望を取り入れて支援しています。施設に入所しているということが、明らかにわかることがないように、外出時には、職員も配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を楽しみ、可能な限り調理や片付けも一緒に出来るように支援しています。今後は、献立を選べるような、支援ができればと思っている。	四季折々の食事や行事に合わせた献立を、職員が持ち回りで考えています。食材は近隣スーパーや魚屋を利用し、三度三度手作りをしています。入居者の個々の力を活かしながら、片付け等職員と一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体機能･体調に合わせ、その中で好みを取り入れた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員がやりすぎることのないように注意しながらも、毎食後に確実に口腔内の清潔が保たれるケアを行っています。必要に応じて歯科受診・訪問歯科を検討しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前･食後にトイレの声かけを行い、できるだけトイレに座り排泄することを支援しています。確実な記録で排泄パターンを共有しています。自尊心に配慮した支援を心がけています。	個々の排泄パターンを把握し声掛けに努め、なるべくトイレで排泄が出来る機会を作り、自立に向けた支援に取り組んでいます。夜間は、快適な睡眠が保てる様、一人ひとりに合った対応に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と薬剤でのコントロールを行い、バランスのよい食事を心がけて便秘の予防･解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に体調などの確認をして、できるだけ希望に沿った入浴が出来るように支援しています。バランスよく入浴ができるように、予定は立てるが、体調や気分によって柔軟に対応しています。	個々の体調を考慮し、柔軟な対応を心掛けています。一人ひとりお湯を入れ替え、乾燥を防ぐ為、入浴剤を使用し保湿ケアにも努めています。入浴拒否には、要因を考え入居者と話し合いながら支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かして夜はゆっくり休めるように支援しています。医師とも連携をして、不眠時には適切な対応が出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師･看護師と連携をして職員全員で共有できるように薬の情報、薬の作用などを個人ケースに記入しています。 本人、家族の意向も聞き入れ薬に頼らない介護を目指しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割を提供し、職員の最低限の支援の中で満足した結果が得られるようにしています。役割を与えるのではなく、その人ができることが役割に繋がるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のない方でも本人の立場になって考え外出の支援をしています。家族とも話を重ねて、家族との外出機会をもてるように支援しています。	天候や入居者の体調を見ながら、家族協力も得て外出支援に取り組んでいます。ベランダや事業所周辺で外気浴をしたり、行事に参加したり、遠出する際は皆で協力しながら出かけられる様に支援しています。	今後も一人ひとりの様子や傾聴を心掛け、入居者の思いにそえる様、地域や家族の協力を得ながら外出支援に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解が得られた方には、所持をしてもらっています。お金を使える機会も提供しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば、相手との電話をサポートしています。手紙の代筆もできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気のある空間の中で、季節の移り変わりを感じていただけるように環境を整備しています。	一人ひとりが安心して生活が送れる空間になる様、その時々の状況に応じて家具の配置などを変えています。また、季節に合わせた飾り付けや温度に気を付け、居心地よく過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の居場所を大切にしながら、気の合う仲間同士でも過ごすことの出来る空間をつくっていけるように工夫しています。必要に応じて家具の配置を変えて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人･家族に使用していたものを持参してもらい、愛着のある物に囲まれて、落ち着いた日常を過ごすことができるように工夫しています。他者が見ても、快適・心地良い部屋と感じれるように配慮しています。	トイレ付の部屋があり、プライバシーを保てる居室づくりや、個々の使い慣れた物・家具を持ち込み、入居者が落ち着いてその人らしく暮らせる様工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を念頭に、利用者の能力が発揮できる環境整備を心がけています。		